



平成 21 年度新事業創出・販路開拓ネットワーク整備・活用等事業

2010 年 1 月 13 日発行

展示会・見本市レポート第40号

発行：全国商工会連合会

編集：(財)日本立地センター

協力：全国イノベーション推進機関ネットワーク

アグロ・イノベーション2009

青果ビジネス関係者のサステナビリティを実現する展示会

| | |
|--------|--|
| 会 期 | 2009年11月25日(水)～27日(金) |
| 会 場 | 幕張メッセ |
| 主 催 | 日本能率協会 |
| 企画主体 | アグロ・イノベーション組織委員会 |
| 学術共催 | 日本農学会、全国農学系学部長会議 |
| 後 援 | 農林水産省、経済産業省、日本貿易振興機構 |
| 事 務 局 | (http://www.jma.or.jp/ai/) |
| 出展者数 | 187団体 |
| 小 間 数 | 311小間 |
| 小 間 料 | 35,700円(税込み) |
| 募集期間 | 2009年3月～8月末 |
| 来場者数 | 29,012名 |
| 出展業種 | 種子・種苗・生産物、耕運機・整地用資器材、生産・栽培用施設・資器材、 収穫・調整・産地加工、情報機器・ソフトウェア、肥料・農薬、環境・資源循 環、GAP 関連製品・サービス・農業関連分野、鮮度管理、農産物 等 |
| 来場者の職業 | 農業経営者、農業生産法人、農業関連団体、小売り、外食・中食、市場・ 卸・商社、食品加工業者、研究機関、地方自治体、大学・教育機関 等 |
| 次回開催予定 | 2010年11月24日(水)～26日(金) 幕張メッセ |

発行：全国商工会連合会 企業支援部 市場開拓支援課 03-3503-1256

編集・問い合わせ：(財)日本立地センター 新事業支援部 03-3518-8964

時流商流

青果ビジネスの持続可能な成長目指す

同展は、1986年から農業の施設園芸に焦点を絞って開催してきた「国際園芸技術展」を全面リニューアルしたものだ。従来は、畑で使用される技術のみの展示会だったが、新たに流通過程に関わる技術の分野を採り入れている。これにより生産現場から量販店の店頭やレストラン、ファーストフードの店頭までを網羅したイベントに衣替えしたのが特徴。

リニューアルの背景には、「日本の食」を取り巻く環境の変化がある。農業の現場でもIT化、植物工場、大規模法人化と異業種の参入、外食産業や量販店との契約栽培など、めまぐるしい動きをみせている。

展示会はこのような状況を踏まえ、農業従事者と流通関係者など、「青果」を扱うビジネス関係者が持続可能な成長性（サステナビリティ）の実現を目指して開催されたものである。



未来の農業技術企業が集結

同展は「農業園芸生産技術展」、「青果物流通・加工技術展」、「小売向け青果物集中展示コーナー」、「農業参入受入自治体コーナー」の4つの展示郡で構成し、最新の製品・技術やマネジメント手法を紹介している。

この中で際立つのは、農業・園芸生産技術展に設けられた「植物工場」のエリア。未来の農業技術を持つ企業が一堂に会した。

同時開催の「アグリビジネス創出フェア2009」でも、植物工場の関連技術の展示が集約されており、両展合同の植物工場を効果的に展示していた。

同展の今ひとつの特徴は、既存の農業従事者ばかりでなく、これから農業を希望するアグリプレナー（農業起業家）にも参考になる出展物がみられることだ。同時に、農業の近代化の一助となる展示会でもある。

次頁からは、本展示会の中でもユニークな取り組みを行っている地域のブースを紹介する。



ブース細見

野菜・花・果実の多収型苗生産システムPR

出 展 目 的 : PR

代表商品の価格:多収型1段密植栽培システム「トマトリーナ」(1坪)=20,000円前後(税別)

東京・中央区のMKVドリーム (<http://www.napperland.net>) は、人口の光を使った多収型の「苗テラス」をPR。

同社は農業用フィルムも手掛ける三菱樹脂の子会社として、バラ、ほうれん草など野菜や花・果実の水耕栽培からスタート。約7年前から温室栽培用の閉鎖型苗生産システムを研究し商品化した。栽培方法が簡単で、大き目の野菜・果実が沢山収穫できるという。

主要ユーザーは農家だが、展示会では苗の生産会社、大規模農園、アグリプレナー、大学、農業関連の試験研究機関にシステムを提案。

直売のほか、地域の農業資材店で販売している。



イチゴ用など育苗トレーの販路開拓

出 展 目 的 : PR

代表商品の価格:育苗トレー「スーパー80型」(ポット数20個)=600円(税込み)

東京・町田市の大和技研工業(電話042-739-4665)は、ハウス栽培用の育苗トレーのPRと販路を開拓。

プラスチック雑貨成形メーカーの同社が育苗トレー分野に参入したのは、10年ほど前。イチゴが病気に罹りやすいことから、苗を育てようとプラスチック成形技術のノウハウで育苗トレーを商品化した。専用の灌水チューブを使うため土の跳ね返りが少なく、耐久性に優れているという。農業・園芸関連資材の売り上げは全体の約10%。農協を経由してイチゴの産地である千葉、栃木、静岡、九州各地で販売。

「万田酵素」活用した園芸用液肥の販路開拓

出 展 目 的 :販路開拓

代表商品の価格:園芸用有機入り液肥「M 78(エムなっば)」(1ℓ) = 5,775円(税込み)

広島県尾道市の万田 (<http://www.manda.co.jp>) は、すべての植物に適した園芸用有機入り液肥の販路を開拓。

同社の原点は、元禄時代に創業した造り酒屋で培ってきた醸造技術。この技術をベースにして、植物のエネルギーを自然の力に委ねて引き出したアミノ酸とミネラルを含む「万田酵素」を開発した。万田酵素は、因島の自然と微生物の生息に適した環境を作り出し、53種類以上の植物を3年3ヵ月以上の時間をかけて発酵・熟成させたもの。

松浦新吾郎会長が23年の歳月をかけて開発に成功したという。

この酵素を使って、これまでに健康食品、アグリ、水産・畜産、スキンケア、植物発酵エキスなど、数多くの商品を展開してきた。

出展した「万田園芸用有機入り液肥」は、果実類・穀類・海藻類など、数十種類の原材料を発酵・熟成させた植物発酵生産物。農協、商社、卸、種苗店で販売。現在、ネットショップと通販を使って、家庭菜園市場を開拓中。

